

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17643	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
俊野 尚彦	選択	2	臨床医（精神科・総合内科）産業医 看護学教員			

授業の到達目標

子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く社会及び環境の理解などを深める。
医療・保健の知識を身につけ、子どもだけでなく自分や周囲の人の健康に目をむけ、健康管理と環境整備ができる知識を身に付ける。

授業の概要

生物としてのヒト及びその生理、社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、身体及び心の発達、それらへの関わり方や役割などを理解する。子どもの健康状態の把握や子どもの疾患の病態生理、特徴を理解する。こうした知識を基盤に予防や対応を共に考えていく。

※授業計画表は状況に応じて適宜変更する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 I 子どもの心身の健康と保健の意義
- 3 I 子どもの心身の健康と保健の意義
- 4 II 身体発育と保健
- 5 III 運動機能の発達と保健
- 6 IV 生理機能の発達と保健
- 7 V 精神機能の発達と保健
- 8 V 精神機能の発達と保健
- 9 VI 心身の健康状態とその把握
- 10 VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 11 VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 12 VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 13 VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 14 VII 子どもの疾病の予防及び適切な対応
- 15 まとめ

授業の方法

スライドや板書を用いてテキストに沿って解説していく。
適宜、ゲスト講義、グループワークや症例検討を行う。
子どもや健康・医療に関するニュース（感染症、精神疾患、制度、社会問題など）に関心を持つ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価方法

- ①出席状況や積極性、授業中のリアクションペーパーなど。
- ②レポートや口頭試問など。

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

新版 よくわかる子どもの保健 丸尾良浩／竹内義博 ミネルヴァ書房
適宜プリントを配布する。

参考図書

病気がみえるvol. 15 小児科 単行本
子どもの心の処方箋—精神科児童思春期外来の現場から 宮田 雄吾

オフィスアワー

講義後など

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの健康と安全			17647	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 私立保育園保育士			

授業の到達目標

保健的観点を踏まえた保育環境及び援助について理解する。関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。子どもの体調不良等に対する適切な対応や保育における感染症対策について具体的に理解する。子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成23年3月厚生労働省）
「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」（平成30年3月 厚生労働省）
「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（平成28年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省）等

授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。保健的観点を踏まえた保育環境及び援助、関連するガイドライン（※）や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。子どもの体調不良等について適切な対応（応急処置や救急処置及び救急蘇生法含む）、感染症対策について具体的に理解する。保育における保健的対応の中で3歳未満児、個別的な配慮を要する子ども、障がいのある子どもへの対応について学ぶ。健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解する。

授業計画

- 1 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
保険における健康及び安全管理①
- 2 保育における健康及び安全管理②
- 3 救急処置及び蘇生法 感染症対策について
- 4 小児救急法【演習】
- 5 小児救急法【演習】

- 6 保育における保健的対応、健康及び安全の管理について
- 7 沐浴指導【演習】まとめ
- 8 まとめ 定期試験

授業の方法

講義及び演習を中心とする。グループワークも取り入れる。

準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも留意する。
事前に必ずテキストを熟読しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50％ 定期試験50％

欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点とする。

テキスト

「子どもの健康と安全」 ななみ書房

参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
授業時に随時紹介する。

留意事項

演習については事前に連絡する。小児救急法（演習）の参加を必須とする。
欠席の場合は別途課題提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人体の構造と機能及び疾病			17855	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
俊野 尚彦	選択	2	医師(精神科・総合内科)看護学教員 産業医			

授業の到達目標

人体の構造（解剖）と生理機能を理解する。
 疾病の原因や成り立ち、経過を理解する（病態生理）。
 また、難治性疾患（がん、難病など）には、それらをサポートする心理的介入、支援体制について学ぶ。
 このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

授業の概要

人体の基本構造と一般的な疾病を人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。
 ※授業計画表は状況に応じて適宜変更する。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 医学総論
- 3 医学総論
- 4 人体の正常構造と機能
- 5 人体の正常構造と機能
- 6 主要な症候と疾病
- 7 主要な症候と疾病
- 8 主要な症候と疾病
- 9 主要な症候と疾病
- 10 主要な症候と疾病
- 11 心理的支援が必要な主な疾病
- 12 心理的支援が必要な主な疾病
- 13 心理的支援が必要な主な疾病
- 14 まとめ
- 15 まとめ

授業の方法

スライドや板書を用いてテキストに沿って解説していく。
 適宜、ゲスト講義、グループワークや症例検討を行う。
 生理学・医学に関するニュース（研究、難病、社会問題など）に関心を持つ。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

評価方法

- ①出席状況や積極性、授業中のリアクションペーパーなど。
- ②レポートや口頭試問を課すことがある。

欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

テキスト

第21巻 人体の構造と機能及び疾病（公認心理師の基礎と実践） 斎藤清二 遠見書房

参考図書

公認心理師カリキュラム準拠 人体の構造と機能及び疾病 武田克彦他 医歯薬出版株式会社

オフィスアワー

講義後など。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
関係行政論			17859	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2	学校心理士 SV 臨床心理士 上級教育カウンセラー、小学校長、教育委員会			

授業の到達目標

心理・社会福祉に関する支援を求められる分野を理解する。さらに、代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な臨床活動を支える基本的な考え方を理解する。
 このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

公認心理師に求められる法律・制度は、社会のニーズに応じて刻々と変わっている。柔軟な姿勢で臨めるよう指導する。
 クライアントが課題を乗り越える支援として法律の基本をきちんと押さえる。

授業計画

- 1 公認心理師に関する法規紹介と全体像を理解する。
- 2 教育分野では、教育基本法を頂点とする各法律の中で、公認心理師が担うべき内容を理解する。
- 3 学校教育と教育委員会関係、チームワークについて理解する。
- 4 学習指導要領の特に総則について理解を深め、学校教育への支援の在り方を学ぶ。
- 5 保健医療分野では、医療制度の概略を理解する。
- 6 公認心理師が主にかかわるであろう精神保健福祉法、医療観察法の内容を理解する。
- 7 高齢化社会に向けて、益々介護保険法の知識が必要となると思われるので、事例を入れながら理解を深める。
- 8 児童虐待が激増している社会状況を踏まえ、児童福祉法の概略を理解する。
- 9 インクルーシブシステムが様々な現場で認知され始めたことを受け、障害児(者)の福祉関連法規を理解する。
- 10 増々の高齢化社会に向け、高齢者福祉領域のニーズは格段に増えつつある。心理職の関わり方を理解する。
- 11 若者の犯罪が急増している現代、少年法、犯罪被害者支援法等について理解する。
- 12 家族崩壊や夫婦離婚、それらに関連する子どもの養育問題等、司法、犯罪分野の知識理解を深める。
- 13 産業・労働分野、特に労働者のメンタルヘルスは重要である。そこ

で、これらの関連法規を理解する。

- 14 男女共同参画、で女性も企業にとって活躍している現代において、多忙な家庭生活が予想される。産業・労働分野における心の健康について深く考える。
- 15 労働者を守る「労働三法」についてきちんと知識を蓄えて、支援できるよう理解を深める。講義後に全体を振り返り、試験を課す。

授業の方法

法規の文言は難解な語句が多いので、事例を加えながら解説していく。

準備学修

社会の出来事に日ごろから関心を持つこと

課題・評価方法、その他

レポート、発表、定期試験

欠席について

学内基準に準拠

テキスト

授業中に指示する

参考図書

授業で指示する

オフィスアワー

掲示板を参照すること